

(行方市) なめがた市民 100 人委員会「第 2 回委員会」議事メモ

分科会	第 1 分科会
コーディネーター	熊谷 哲 (公益財団法人笹川スポーツ財団研究主幹、京都芸術大学客員教授)
ナビゲーター	なし
説明担当者 (自治体)	商工観光課 1 名 企画政策課 1 名
日時	2020 年 11 月 8 日 (日) 13 時 50 分から 15 時 30 分
場所	麻生公民館
その他	参加者数 8 名 欠席者数 8 名

議論の流れ

- ・ 導入 (改善提案シートの書き方)
- ・ 自己紹介 (今回からの参加者 2 名)
- ・ 白帆の湯について
- ・ 企業誘致について
- ・ ここまでの話で見えてくる地域の課題 (主に農業分野)
- ・ まとめ (次回に向けて)

まとめ

- 指定管理に出している施設 (白帆の湯など) については、住民がどういったところで協力してやっていけるか議論する。
- 企業誘致については、単純に企業を誘致すればよいという話ではなく、地元雇用や地場産業と結びつく企業を探して誘致をする取り組みが必要。行方ではどこに焦点を当てて、どのような企業を誘致するかを議論する。
- 新規就農はかなり大きなハードルがある。空き家や耕作放棄地の活用し、農家の協力を得て農業体験を充実させ、就農にワンステップ設ける仕組みを議論する。
- 農家を継ぐ、継がないには様々な事情がある。自分のやる気と、知恵や工夫を出し合う努力と、それを併せ持った人でなければ、中々続けていくことは難しい。それらの課題をふまえ、行方としての対策を考えていく。

次回に向けた準備

- 農林水産課職員の出席を要請し、農政データ (農業販売額など) や就農支援の解説を求める。

発言録

【導入】

- コ) 今回の目的は「改善提案シート」を書いてもらうことです。
おそらく今日の 1 時間半でどうやって解決していくか書くことは難しいかと思えますから、どういった課題があるかお互いの認識を共有できればと思っています。
- 委) 後日、個人的に書いて出すことはできますか？
- ス) はい。その場合、市役所へ窓口なり郵送なり FAX なりで提出してください。
- コ) 本日から参加された方が 2 名おりますので、自己紹介をお願いします。
(自己紹介フォーマット参照)
- コ) 会長と副会長を決めたい。

委): 委員、コ): コーディネーター、ナ): ナビゲーター、市): 説明担当者

→会長、副会長の決定

- コ) 前回、企業誘致の状況と白帆の湯の状況を市から説明を受けたいという話がありました。本日は担当課の方もいらしておりますので、早速お話を伺ってもよろしいですか？
- 委) 事務局の方もこちらで一緒に議論してはいかがか？
- コ) そうですね。ではこちらにいらしてください。

【白帆の湯について】

- 市) 商工観光課です。
商工観光課所管の白帆の湯は指定管理で民間事業者運営してもらっています。指定管理料は6600万円支払っています。来館者数は平成29年度11万人、平成30年度10万人おり、県内外多方面から利用者がいる状況です。隣にあるコテラスにおいては物販をしながら運営しており、温浴施設で4200万、物販で2800万の売り上げがあります。
- コ) 指定管理というのは、施設を持っているのは市、運営しているのは民間事業者がやるという制度。民間事業者は利用料収入もあるがそれだけでは赤字になるので、指定管理料を市からもらって運営する制度です。
- 委) 白帆の湯はなぜ委託したのか？
市民は娯楽があって楽しいから行く。外部の人は景色が美しいから行く。今は行く人は市外の人だけ。小さな種を財産にしようという意識でなければだめだと思う。例えば入館料を安くしても市民は来ない。楽しく利用できなければ市民は来ないと思う。
話は変わるが行方はダイヤモンド富士が撮影できるポイントである。色々なところからカメラマンが撮影しにやってくる。こういうことを市や市民はSNSを積極的に活用してPRしていかなければならないと思う。
- 委) 潮来市では図書館を指定管理に出してきれいになった。蔵書の数も増えたと聞いている。
- コ) 白帆の湯だけが今日のテーマではなく、また後で議論するタイミングがあればさせてもらいたいと思う。全国の自治体でも様々な指定管理のやりかたがあり、中には指定管理者と住民が協力して運営しているところもあります。白帆の湯でも住民がどういったところで協力してやっていけるか議論してみることも面白いと思います。そこで利用者も増えて、リピーターも増えて、結果的に雇用が生まれれば一番いいと思います。白帆の湯もきっと様々な事情があって指定管理となったと思いますから。

【企業誘致について】

- 市) 企画政策課です。
企業誘致の取組みを説明させていただきます。市内には2か所の工業団地がありますので、そこと学校跡地も企業誘致の候補としておりますのでご紹介させていただきます。
「上山鉾田企業団地」は昭和57年に分譲開始し、すべて企業に買ってもらったのですが、現在は2か所の空き地がございます。そこは民間の所有地になっておりますが、市の方で企業誘致としてサポートさせていただいております。
「北浦工業団地」は茨城県の事業地であり、平成6年から用地買収を開始しまして、平成12年に分譲開始しております。かなり広大な土地でして200haの敷地でやっているのですが、残念ながら企業は入っておらず、太陽光発電所が4社ほど入っているのと国の施設が1つ入っていることにとどまっております。
そのほかに行方市では平成23年から小学校の統廃合を進めさせていただいておりまして、22校の学校が7校まで減らさせていただきましたが、廃校も企業誘致の候補地として進めております。
行方市内に高速道路がまだ開通しておりませんが、現鉾田インターが平成30年に開通いたしまして、北浦インターと麻生インターももう間もなく開通すること

委):委員、コ):コーディネーター、ナ):ナビゲーター、市):説明担当者

です。茨城県内で企業誘致の一番人気圏が圏央道沿いと呼ばれているところで、今の時代でも自治体が工業団地を作るほど人気の場所となっているのですが、そこが売り切れればよいよ行方も日が当たるのではないかと考えております。

平成 26 年には白ハトさんがファーマーズビレッジを開業し、平成 28 年に武田小学校の跡地を地元の倉川製作所が活用、平成 30 年には自動運転の研修所の施設が市内に立地し、昨年は現原小学校の跡地に金属加工業さんが用地を取得し事業化に向けて準備しているところです。

- コ) 前回、私は太陽光発電は概にした方がいいと発言したのですがね。
企業誘致が進んでいないから駄目だということではない。北浦は県が分譲しているので、市の方でどうにかすることは難しいのかもしれませんが、重要なのは企業を誘致して雇用に結びつくかという話と、引っ張ってくるならばどういった企業を引っ張ってきて地場の産業と結びつけて、行方にとっていい効果が生まれるかという話だと思うんです。企業を誘致したとしても、働きに来る人は市外からで、買い物するのも市外、売り上げも東京の本社に計上されますという企業が来ても、行方市にとって受益は無いに等しい。そんな企業誘致ならしない方がいいという話もあると思います。
- 委) 企業誘致が成功したら固定資産税は増えるのですよね。雇用も若干増えるということもある。だけれど教育事情が悪いので、移住したがるらないというのは知り合いから聞いたことがある。ファーマーズビレッジのように特化したものがあるといい。
- 委) 坪単価が高すぎる。20000 円/坪から下げないとだめだと思う。
- コ) 香川県の高松市の隣に三木町という町がある。高松市のベットタウンのような町なのですが、県の工業団地に多くの企業を立地したんですね。ある時点で町が実績を調べてみると、地元雇用はゼロであり、ほとんどが高松市に在住し、買い物も高松市。そういう企業誘致の実態もあたりします。だから単純に企業を引っ張ってほしいという話ではないんですね。

地元雇用や地場産業と結びつく企業を探して誘致をする取り組みが必要だと思います。私の行っている自治体も京都府が造成した企業団地が 2 か所あるのですが、この 20 年くらいまったく売れなかったところが 1 か所ありまして、そこは府の工業団地なのですが、積極的に市が売り込みをしているんです。できるだけ地場産業と結びつくものとか、地元雇用を積極的にやってくれるところに予算をかけてやっています。1 ターン・リターン・J ターンで雇用してくれたら、その分の助成金を企業に対して 3 年間出しますということをやリ、ようやく工業団地の 8 割が売れるようになってきた。

企業回りをしているとよく言われるのが土地代です。土地代も近隣で単純に比較されるのではなくて、広義的に移動時間や移動手段、生活環境、教育環境などをすべて費用化して比較した時に、一番安上がりで社員の福利厚生を担保できるところを探している。行方では何を特徴的に出してやっていくのかを考えなければならない。

【ここまでの話で見えてくる地域の課題】

- コ) ここから先は前回の話と市担当課の話もふまえて、地域の課題についてお話しいただけたらと思います。
- 委) 銚田に勤めているが、同僚はほとんど神栖か鹿嶋に住んでいる。行方に住もうとしてもどこにアパートがあるかもわからない。
- 委) 私の知り合いではアパートではなく、一軒家を借りたいという人がいる。安い賃料で借りられて、農業もできる環境でもあった。しかし病院がだめ。せっかくいい病院ができたのに今や規模が縮小してしまっている。そこを何とかしてもらいたい。
- 委) 西蓮寺へは、地元の間人が少なく来るのは外の間人が多い。この間お祭りがあった時に出店（でみせ）が並んでいたが、お客が全くおらず驚いた。大銀杏とか桜の木々が素晴らしいのにもったいない。
- コ) 観光課の方では西蓮寺の観光入込数を把握していますか？
- 市) 西蓮寺のみでは把握していません。市全体では年間約 60 万人です。

- 委) 水の科学館はやめてしまったのですか？
- 市) 水の科学館はやめてしまったのではなく、リニューアル中です。令和4年の12月から再オープンする予定です。あそこは国から有償譲渡し、リニューアルしてからは指定管理で盛り上げていこうと考えています。
- 委) 検証報告書を読んでいて、離農者が多いというのはどういうことか？農業販売額とか目標を達成できたものについては素晴らしいが、達成できた理由も知りたい。達成できないものは、なぜ達成できなかったのか話を聞きたい。具体的に数字がないとわからない。
- コ) 農業の面でいえば、全部の目標を満たすことは無理です。人も増えて、耕作放棄地も少なくなり、出荷額も増えるということは、おそらく全国を探してもないと思います。その中で、行方として総合戦略を策定する中で、皆さんが色々意見を申し合って考えたほうが、市にとってもありがたいのではないかと思います。
- 考えるにあたり、まずどこに目標を定めるのか。どこに力点を置くかということをお互いさんの間でお話していただきたいと思います。出荷額を増やして行方の魅力を高めるのか、親元に帰ってきて農業を継ぐということに目標を定めるのか、それとも耕作放棄地を減らすということから考えるのか。
- 例えばアメリカは、農業従事者が人口の1.3%しかいません。しかし、日本の数十倍という農業販売額があります。だけれども就農人口を増やそうと考えているわけではありません。アメリカと日本の農業の違いもあるので、アメリカの真似をすればいいというものではないのですが、行方の場合はまずどこに目標を定めるのかを決めることが重要だと考えます。
- 委) それは、農家の数は減っているけれど、収益が高くなった、1戸あたりの収益率が高くなったということですか？
- コ) そう思います。
- この中に実家が農家だという方はいらっしゃいますか？
- 【無し】
- コ) 前回の総合戦略策定時にも同じような話をしたのですが、割と農家の方がたくさんいらしていたのですが、その時の話をお伺いするためにOBさんをお呼びします。農家の子供たちは小さいころから農家を継げとは言われて育っていないようなのですね。だから今の20代・30代・40代の農家の子供たちは、継ぐ気もないし、帰ってきて継ぐとも思っていないようなのですね。仕事も厳しい、売るのも厳しい、そんな中で無責任に帰ってきて継げとも言えないということを議論したのです。
- 委) 私の旦那の実家はおじいさんの代まで農家でした。今はその広い畑をサツマイモ農家に貸し出しています。
- コ) 旦那様は行方の方ですか？
- 委) そうです。私の同級生で千葉からレンコンに興味をもって移住した人がいます。だから好きになってもらうことが大切だと思います。
- あと、空き家が多いという問題もありますが、その空き家を活用して農業体験をしたい人を招き、農家と協力して農業体験できる仕組みがあるといいと思います。やはりいきなり引っ越してきて農業をやりますというのはハードルが高いと思います。なので、まずは農業を体験することでワンステップ置くといいのではないのでしょうか。
- 委) 行方市では農業体験できる施設がありましたよね？あれはなぜやめてしまったのですか？
- 市) お試し住宅ですか？あれは辞めたわけではなく、太陽光発電施設の資材置き場として、一時的に休止しています。おっしゃる通り、新規就農には五反分以上という決まりがあります。だから一気に五反分からは始めるのではなくて、1町歩・2町歩からお試しで始めてみる試みですね。

【0Bの話】

コ) 0Bの方にお越しいただいたので、前回の総合戦略策定時の話ですとか、農業をやられてきた経験からどんなことを感じておられるかお話ししたいと思っています。

ナ) 5年前の第1分科会の副会長をやっていました。一般社団を設立して代表理事を務めております。

私の家は専業農家でしたが、私は跡を継がず建築の道に進みました。父は農家の三男でしたが、上の兄弟二人が戦死し、父が跡を継ぎました。私は高校時代に親から農家を継げと言われ、それが嫌で高校時代はぐれてしまいました。

今の時代、専業農家はなかなかおらず、安定した職に就き、農家を兼業でやる人が多い状況です。そして、稲作ではなく、畑作農家が多い状況でもあります。

年間稼働時間が累計1週間程度しかない耕運機などの高額な農業用機械を、各農家が個別に持っているのが、非常に効率が悪く感じています。

5年前のメンバーによると、人材を募集しても給与が低くて応募がない状態とのこと。だから働く場はあるにはあるのですが、求職者が選り好みをしているのではないかと思います。

私も相当の歳になってきましたけれども、まだまだ農業にかかわりたいなという意識を持っております。

コ) ありがとうございます。今のお話でいくつも示唆があったと思います。農業はなかなか厳しい世界ではありますが、行方の場合、他所と比べてチャンスはあると思うところ。例えば土地が肥沃であるとか霞ヶ浦や北浦に恵まれているとか強みはたくさんあります。一方で離農される方もいらっしゃる。農業は、これをやっていけば成功するという定石がありません。農家の方々は、色々と知恵や工夫を凝らして出し合いながら頑張って農業販売額を増やしていると思います。だからこそ、自分のやる気と、知恵や工夫を出し合う努力と、それを併せ持った人でなければ、中々続けていくことは難しい職業だと思います。そういったところが、今のお話の中からも見えてくるかと思います。

今日のところは課題にとどめておいて次回からは、その課題をどうするのかという話に繋げていければと思います。